

【ポスター発表】

放課後児童クラブ支援員の質の向上をめざした研修のあり方 ービデオ研修からの学びー

○名古屋経済大学 堀 美鈴 (009383)

関谷 みのぶ (名古屋経済大学・004555)

キーワード：放課後児童クラブ・ビデオ研修・共通理解

1. 研究目的

放課後児童クラブ運営指針によると、放課後児童支援員の役割として「放課後児童支援員は、豊かな人間性と倫理観を備え、常に自己研さんに励みながら必要な知識及び技能を持って育成支援にあたる役割を担うとともに、関係機関と連携して子どもにとって適切な養育環境が得られるよう支援する役割を担う必要がある。また、補助員も同様の役割を担うよう努めることが求められる」と記述されている。より良い児童クラブを目指すためには、環境として最も影響を与えるのは支援員・補助員（以下支援員）であり、その支援員の動き、言葉はとても重要である。児童クラブの支援員の構成は、学校は教師というように、一つの施設に同じ免許資格を持った人だけがいるのではなく、教師、幼稚園教諭、保育士のように、様々な資格、免許を持った人が一緒に子どもの支援にあたっている。その支援員の資質向上のために様々な研修が行われているが、どのような研修がより質を高め、共通理解をすることができるのか考える。

2. 研究の視点および方法

研究の視点

ビデオ研修を2回行う事で、支援員が自ら自分の言動等を振り返り、自ら改善しようとする気持ちを持つことができるか。改善点を職員が共通理解できるかをねらいとする。

研究の方法

A市は9つの小学校区ごとに公立の放課後児童クラブが設置されている。そのうち8つの小学校区の児童クラブでの日常的な場면을ビデオに撮り、研修に取り入れる。

ビデオ撮影日 2017

児童クラブ名	A	B	C	D	E	F	G	H
1回目	6月16日	5月26日	6月26日	7月18日	6月20日	5月12日	10月3日	6月19日
2回目	12月4日	11月27日	1月15日	12月11日	11月20日	12月12日		12月5日

ビデオ撮影 2回

全児童クラブの同じ場면을撮影する。

（子ども達が下校し、点呼、おやつ、勉強までの流れ）

1回目研修会（各児童クラブでビデオを見る）

- ・良いところ、悪いところ、改善点の共有

2回目研修会（2つの児童クラブごとに研修会）

- ・改善されたところ
- ・お互いの良いところ、悪いところ
- ・これから気をつけたいところ

3. 倫理的配慮

録画したビデオについては、研究協力者と研究協力館・センター及びA市に事前に内容の確認を行ったうえで、研究に使用することを説明した。あわせて、研究協力者及び研究

協力館・センター及びA市には、個人が特定されることのないよう配慮すること、また、得られた情報に関して、研究者が責任を持って管理することを口頭にて約束した。

4. 研究結果

○第1回研修会（それぞれの児童クラブにて）

①自分の姿を見て

- ・子どもに声をかけているつもりであったが
- ・立ちながら話している。視線を合わせていない（A・C・E）
- ・ビデオを見て、泣いている子に気づいた（B）
- ・トラブルの時など職員同士もう少し連携が必要（B）

②環境について

- ・子ども同士の席が接近しすぎていて動きづらいので工夫が必要（H）
- ・支援員同士が固まりすぎている。もっと適切に動く必要がある（C・E）
- ・子どもたちを待たせている時間が長すぎる。（A・B・D・E・F・H）

③場面をとらえて考える

帰ってきた時、一人の子どもが泣いていたらどのように対応するか(B児童クラブ)
 ア…そのまま様子をみておき、おやつが終わった頃に事情を聞く。
 イ…話を聞かないと気持ちが収まらないため、とりあえず受け止める。
 ウ…泣いている時は心の中が話せないため、要件だけ聞きあとでゆっくりと聞く。
 エ…「大変だったね」と声をかける。話の大筋が分かったら「あとできくね」と言う。
 ※話がだいたいつかめるところまではつかんでおく。状況にもよるが、まずは安心するところまで聞く。

○第2回研修会（2児童クラブにて）

- ・前回の反省より、子どもにとっての環境を考えた。（全）
- ・できるだけ、子どもたちを待たせることがないよう工夫した。（A・B・D・E・F・H）
- ・子どもたちの姿をよく見ることで、また、自分を振り返ることなど考えた（全）
- ・職員同士の動きを再確認した。（全）
- ・他の児童クラブを見て、環境面がとても役に立った。（全）

5. 考察

ビデオの画像を見ることで、名須川ら（2003）によると、「目の当たりに画像として突きつけられることで大きく短時間に自分の癖への気づきをさせてくれた」とあるように、自ら改善点として挙げ、2回目のビデオを撮影するときにはほとんど実際に改善できた。また、同じ場面を見て、自分の行動の意味を個々に考えることによって、それぞれの相違が見え、共通理解しようという気持ちが見られた。しかし、目に見えないもの、たとえば「子どもの主体性をどのように」などは、これまでの経験や価値観の相違があり、研修会での発言と実際の行動とでは違いがみられる。この違いをなくすためには支援員の言葉や行動が子どもたちにどう映り、どのように感じ取るのかなど、子どもの側に立って考える必要がある。同じ場面を全員で見ながら、言葉や行動の理由について考えていく。そのためにも1回だけでなく継続的にビデオ撮影し振り返り、それぞれの内面を浮かび上げさせながら、共通理解を進めていく方法が望ましいのではないかと考える。

【参考・参考文献】

厚生労働省（2017）『放課後児童クラブ運営指針解説書』

名須川・藤井・池田・法田・合田（2003）『保育者の資質向上に関する研究（Ⅱ）』日本保育学会大会発表論文集